



D-R コマンド

- [decommission](#) (3 ページ)
- [decommission-secure](#) (4 ページ)
- [delete hw-crypto](#) (5 ページ)
- [delete](#) (6 ページ)
- [delete decommissioned server](#) (8 ページ)
- [deregister](#) (9 ページ)
- [disable \(app-instance\)](#) (10 ページ)
- [disable \(export-configuration\)](#) (12 ページ)
- [disable \(interface\)](#) (13 ページ)
- [disable \(port-channel\)](#) (14 ページ)
- [disable \(security modes\)](#) (15 ページ)
- [disable reservation](#) (16 ページ)
- [disable snmp](#) (17 ページ)
- [discard-buffer](#) (18 ページ)
- [download image](#) (19 ページ)
- [enable \(app-instance\)](#) (21 ページ)
- [enable \(CC and FIPS security modes\)](#) (23 ページ)
- [enable \(export-configuration\)](#) (25 ページ)
- [enable \(interface\)](#) (26 ページ)
- [enable \(port-channel\)](#) (27 ページ)
- [enable reservation](#) (28 ページ)
- [enable snmp](#) (29 ページ)
- [end](#) (30 ページ)
- [enter](#) (31 ページ)
- [erase](#) (33 ページ)
- [exit](#) (35 ページ)
- [export-config](#) (36 ページ)
- [generate password](#) (38 ページ)
- [import-config](#) (39 ページ)

- [install](#) (42 ページ)
- [install firmware](#) (43 ページ)
- [install platform](#) (45 ページ)
- [mgmt-port \(connect local-mgmt\)](#) (47 ページ)
- [ping \(connect local-mgmt\)](#) (48 ページ)
- [ping6 \(connect local-mgmt\)](#) (50 ページ)
- [power](#) (52 ページ)
- [reboot](#) (53 ページ)
- [reinstall](#) (55 ページ)
- [register](#) (56 ページ)
- [reinitialize](#) (57 ページ)
- [remove server](#) (58 ページ)
- [renew](#) (59 ページ)
- [reset-password](#) (60 ページ)
- [request universal](#) (61 ページ)
- [restart](#) (62 ページ)
- [return](#) (63 ページ)

decommission

サーバの稼働を中止するには、**decommission server** コマンドを使用します。

decommission server {*id*|*chassis_id/blade_id*}

構文の説明	<i>id</i>	サーバの ID 番号。1 ~ 255 の値です。
	<i>chassis_id/blade_id</i>	n/n 形式のシャーシおよびブレードの ID 番号。
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.3(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 使用停止にするモジュールをホストしているデバイスの種類によって、モジュールはモジュールIDで識別されるか（4100 シリーズ）、シャーシ番号とモジュール番号で識別されます（9300 デバイス）。

セキュリティモジュールを使用停止にすると、そのモジュールオブジェクトが設定から削除され、そのモジュールは管理対象外になります。モジュール上で実行していた論理デバイスやソフトウェアは非アクティブになります。

例

次の例では、サーバの稼働を中止する方法を示します。

```
firepower# decommission server 1/1
firepower* # commit-buffer
firepower #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	delete decommissioned	稼働中止されたサーバを削除します。
	show server decommissioned	稼働中止されたすべてのサーバを表示します。

decommission-secure

サーバーの稼働を安全に中止するには、**decommission-secure server** コマンドを使用します。

decommission-secure server *chassis_id/blade_id*

構文の説明	<i>chassis_id/blade_id</i>	n/n 形式のシャーシおよびブレードの ID 番号。
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.7(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	このコマンドを使用すると、指定したモジュールが安全に消去されます。つまり、単にデータが削除されるだけでなく、物理ストレージが「ワイプ」（完全に消去）されます。セキュリティモジュールが消去されると、確認応答されるまでダウンした状態になります（デコミッションされたモジュールと同様）。	

例

次の例は、サーバーの稼働を安全に中止する方法を示しています。

```
firepower# decommission-secure server 1/2
Warning:
1. Secure decommissioning of the service module may take some time. Please use the CLI
command 'show slot status [n/n] detail' to check for completion.
2. All of the application data on the service module will be lost. Please back up the
application's configuration files before executing the commit-buffer command.
firepower* #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	decommission server	サーバーの稼働を中止します。モジュールオブジェクトは設定から削除されますが、物理ストレージは完全には消去されません。
	erase secure	指定されたシステムコンポーネントを安全に消去します。

delete hw-crypto

コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーション設定を削除するには、**delete hw-crypto** コマンドを使用します。TLS 暗号化アクセラレーションの詳細については、『*Firepower Management Center Configuration Guide*』を参照してください。

delete hw-crypto

コマンドモード

connect module

コマンド履歴

リリース 変更内容

2.7.1 このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーション設定を削除できます。コンテナインスタンスで TLS 暗号化アクセラレーションが有効になっている場合、このコマンドを使用すると、設定は、削除される前に無効になります。

例

次に、TLS 暗号化アクセラレーション設定を削除する例を示します。

```
scope ssa
/ssa # show app-instance

App Name   Identifier Slot ID   Admin State Oper State   Running Version Startup
Version Deploy Type Turbo Mode Profile Name Cluster State   Cluster Role
-----
ftd        FTD-FDM   1           Enabled   Online       6.5.0.1159   6.5.0.1159
Native     No                               Not Applicable None
ftd        ftd2      2           Enabled   Online       6.5.0.1159   6.5.0.1159
Container  No           Default-Small Not Applicable None

/ssa # sc slot 2
/ssa/slot # scope app-instance ftd ftd2
/ssa/slot/app-instance # delete hw-crypto
/ssa/slot/app-instance* # commit-buffer
```

関連コマンド

コマンド	説明
create hw-crypto	コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーション設定を作成します。
scope hw-crypto	コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーション設定を有効または無効にします。
show hw-crypto	コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーション設定のステータスを表示します。

delete

既存の管理対象オブジェクトを削除するには、適切なコマンドモードで該当する **delete** コマンドを使用します。

delete *object_type* *name* [*parameters*]

構文の説明

<i>object_type</i>	削除するオブジェクトのタイプ。例には、ローカル ユーザ アカウントと組織が含まれています。
<i>name</i>	削除する特定のオブジェクトの名前。
パラメータ	(オプション) オブジェクトの識別に必要な追加のプロパティまたはパラメータ。詳細については、特定のオブジェクトに対する create コマンドの説明を参照してください。

コマンドモード

削除対象のオブジェクトのタイプに応じて異なります。詳細については、特定のオブジェクトに対する **create** コマンドの説明を参照してください。

コマンド履歴

履歴情報については、特定のオブジェクトに対する **create** コマンドの説明を参照してください。

使用上のガイドライン

オブジェクトは、管理可能な物理コンポーネントエンティティまたは論理エンティティを抽象的に表現したものです。たとえば、シャーシ、セキュリティ モジュール、ネットワーク モジュール、ポート、プロセッサは、管理対象オブジェクトとして表現される物理コンポーネントです。また、ライセンス、ユーザロール、プラットフォームポリシーは、管理対象オブジェクトとして表現される論理エンティティです。

FXOS には、オブジェクト管理用に一般的な 4 つのコマンド (**create**、**delete**、**enter**、**scope**) があります。たとえば、ローカル ユーザ アカウントの作成、ローカル ユーザ アカウントの削除、ローカル ユーザ アカウントの入力を行い、そのアカウントのプロパティを割り当てまたは変更することができます。また、ローカル ユーザ アカウントを「調査」し、プロパティを割り当てまたは変更することもできます。

通常、これらのオブジェクト管理コマンドごとに利用可能なキーワードとオプションは同じであるため、さまざまなオブジェクト コマンドの **create** バージョンだけについて説明します。つまり、特定のオブジェクトの **delete** コマンドの詳細については、そのオブジェクトの **create** コマンドの説明を参照してください。たとえば、既存のローカル ユーザ アカウントの削除に関連する情報については、[create local-user](#) を参照してください。

例

次の例は、セキュリティ モードを開始して、ローカル ユーザ アカウントを削除する方法を示しています。

```
firepower # scope security
firepower /security # delete local-user test_user
firepower /security/local-user* # commit-buffer
firepower /security/local-user #
```

次の例は、ローカルユーザーアカウントを入力してから、ユーザーロールを削除する方法を示しています。

```
firepower # scope security
firepower /security # enter local-user test_user
firepower /security/local-user # delete role aaa
Warning: Change of privileges will terminate active sessions (CLI and Web) of user
'test_user
firepower /security/local-user* # commit-buffer
firepower /security/local-user #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create local-user	新規のローカル ユーザ アカウントを作成します。
enter local-user	ローカル ユーザ アカウントを追加または編集します。
delete local-user	既存のローカル ユーザ アカウントを削除します。
scope local-user	既存のローカル ユーザ アカウントを入力します。

delete decommissioned server

稼働中止されたサーバを削除するには、**delete decommissioned server** コマンドを使用します。

delete decommissioned server *vendor model serial_number*

構文の説明		
	<i>vendor</i>	サーバを製造した会社の名前です。入力できる最大文字数は510文字です。
	<i>model</i>	モジュールのモデル名です。入力できる最大文字数は510文字です。
	<i>serial_number</i>	モジュールのシリアル番号です。入力できる最大文字数は510文字です。

コマンドモード 任意のコマンドモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.4(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、稼働中止されたサーバを削除する方法を示しています。

```
FP9300-A # delete decommissioned server Cisco Systems, Inc.
Cisco Firepower 9000 Series Security Module
FLM1949C6J1
FP9300-A* # commit-buffer
```

関連コマンド	コマンド	説明
	decommission server	サーバの稼働を中止します。

deregister

この Firepower 4100/9300 デバイスをシスコ スマート ソフトウェア ライセンシングのアカウントから削除するには、**deregister** コマンドを使用します。

deregister

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

License mode

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

登録解除すると、アカウントからデバイスが削除され、デバイス上のすべてのライセンス権限と証明書が削除されます。この操作により、新しい Firepower 4100/9300 用にライセンスを解放したり、Smart Software Manager からデバイスを削除したりすることができます。

例

次の例は、このデバイスを登録解除する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope license
FP9300-A /license # deregister
FP9300-A /license #
```

関連コマンド

コマンド	説明
register	この Firepower 4100/9300 デバイ스에 Smart Software Manager のアカウントを登録します。

disable (app-instance)

既存のアプリケーションインスタンスを無効にするには、app-instance モードで **disable** コマンドを使用します。

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

scope ssa/scope slot/scope app-instance

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、アプリケーションインスタンスをシステムから削除せずに無効にできます。

例

次の例は、ステータスを含む現在のアプリケーションインスタンスを表示し、アプリケーションインスタンス モードを開始し、アプリケーション インスタンスを無効にする方法を示しています。

```
firepower # scope ssa
firepower /ssa # scope slot 2
firepower /ssa/slot # show app-instance
```

```
Application Instance:
  App Name   Identifier Admin State Oper State   Running Version Startup Version
  Deploy Type Profile Name Cluster State Cluster Role
  -----
  ftd1      IFT-63    Enabled   Online    6.3.0.12    6.3.0.12
  Native                    In Cluster   Slave
```

```
Application Instance:
  App Name   Identifier Admin State Oper State   Running Version Startup Version
  Deploy Type Profile Name Cluster State Cluster Role
  -----
  ftd2      FTD-2     Enabled   Online    6.3.0.12    6.3.0.12
  Container bronze      Not Applicable None
firepower /ssa/slot # scope app-instance ftd2 FTD-2
firepower /ssa/slot/app-instance # disable
firepower /ssa/slot/app-instance* # commit-buffer
firepower /ssa/slot/app-instance #
```

関連コマンド

コマンド	説明
enable	既存のアプリケーション インスタンスを有効にします。

コマンド	説明
scope app-instance	特定のアプリケーション インスタンスのアプリケーション モードを開始します。

disable (export-configuration)

既存のエクスポート設定オブジェクトを無効にするには、`export-config` モードで **disable** コマンドを使用します。

既存のアプリケーションインスタンスを無効にするには、`app-instance` モードで **disable** コマンドを使用します。

既存のエクスポート設定オブジェクトを無効にするには、`export-config` モードで **disable** コマンドを使用します。

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

scope system/scope export-config

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

`export-configuration` モードでこのコマンドを使用すると、既存のエクスポート設定オブジェクトをシステムから削除せずに無効にできます。

例

次の例は、エクスポートされた既存の設定オブジェクトを有効にして、無効にする方法を示しています。

```
firepower # scope system
firepower /system # scope export-config 192.168.1.2
firepower /system/export-config #disable
firepower /system/export-config* #commit-buffer
```

関連コマンド

コマンド	説明
enable	<code>export-config</code> モードでは、既存のエクスポート設定オブジェクトを有効にします。
scope export-config	既存のエクスポート設定オブジェクトを入力します。

disable (interface)

現在のインターフェイスを無効にするには、インターフェイスモードで **disable** コマンドを使用します。

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

scope eth-uplink/scope fabric/interface

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

現在のインターフェイスを無効にするには、このコマンドを使用します。

例

次の例は、インターフェイスを無効にして、そのステータスを確認する方法を示しています。

```
firepower # scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope fabric
firepower /eth-uplink #/fabric # scope interface Ethernet1/5
firepower /eth-uplink/fabric/interface # disable
firepower /eth-uplink/fabric/interface* # commit-buffer
firepower /eth-uplink/fabric/interface # show
```

```
Interface:
  Port Name          Port Type          Admin State Oper State          Allowed Vlan State
Reason
-----
-----
      Ethernet1/5      Data              Disabled      Up              All
firepower /eth-uplink/fabric/interface #
```

関連コマンド

コマンド	説明
enable	現在のインターフェイスを有効にします。
set	インターフェイスモードで、インターフェイス コンフィギュレーション パラメータを設定します。
show interface	インターフェイスの設定とステータスに関する情報を表示します。

disable (port-channel)

現在のポートチャネル（EtherChannel）を無効にするには、ポートチャネルモードで **disable** コマンドを使用します。

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

scope eth-uplink/scope fabric/port-channel

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

現在のポートチャネルを無効にするには、このコマンドを使用します。

例

次の例は、ポートチャネルを無効にして、そのステータスを確認する方法を示しています。

```
firepower # scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope fabric
firepower /eth-uplink #/fabric # scope port-channel 4
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel # disable
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # commit-buffer
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel # show
```

```
Port Channel:
  Port Channel Id Name          Port Type          Admin State Oper State
Port Channel Mode Allowed Vlan State Reason
-----
-----
      4          Port-channel4    Data              Disabled    Failed
Active          All          Admin config change
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel #
```

関連コマンド

コマンド	説明
enable	現在のポートチャネルを有効にします。
show port-channel	ポートチャネルの設定およびステータス情報を表示します。

disable (security modes)

コモンクライテリアモードまたはFIPS（連邦情報処理標準）モードを無効にするには、セキュリティモードで **disable** コマンドを使用します。

disable { **cc-mode** | **fips-mode** }

構文の説明	cc-mode	コモンクライテリアモードを無効にするには、このキーワードを使用します。
	fips-mode	FIPS モードを無効にするには、このキーワードを使用します。
コマンドモード	scope security/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	このコマンドがコミットされると、システムの再起動が必要になります。	

例

次の例は、セキュリティモードを開始し、FIPS モードを無効にする方法を示しています。

```
firepower # scope security
firepower /security # disable fips-mode
Warning: A reboot of the system is required in order for the system to be
operating in a non-FIPS approved mode.
firepower /security* #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	enable (security modes)	CC モードまたは FIPS モードを有効にします。
	show cc-mode	現在のコモンクライテリアモードの管理状態および動作状態を表示します。
	show fips-mode	現在の FIPS モードの管理状態と動作状態を表示します。

disable reservation

永久ライセンス予約を無効にするには、**disable reservation** コマンドを使用します。

disable reservation

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

ライセンス (/license) モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

Firepower 4100/9300 シャーシに永久ライセンスを割り当てる前にライセンス予約を有効にします。

例

次の例は、ライセンス モードを開始し、予約モードを無効にする方法を示しています。

```
FP9300-A # scope license
FP9300-A /license # disable reservation
Warning: If you have already generated the authorization code from CSSM
and have not installed it on the device, please abort this command by
issuing discard-buffer and complete the installation.
FP9300-A /license* #
```

関連コマンド

コマンド	説明
enable reservation	パーマネントライセンスの予約をイネーブルにします。
show license	現在のライセンス情報を表示します。

disable snmp

このデバイスで Simple Network Management Protocol (SNMP) 処理を無効にするには、**disable snmp** コマンドを使用します。

disable snmp

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

scope monitoring/

コマンド履歴

リリース

変更内容

1.1.1

コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、このデバイスで SNMP エージェントを無効にします。現在の SNMP コミュニティ設定は廃棄されますが、他の SNMP 構成設定は削除されません。

例

次の例は、モニタリングモードを有効にし、SNMP 処理を無効にしてから、**show snmp** コマンドを使用して無効になっていることを確認する方法を示しています。

```
firepower # scope monitoring
firepower /monitoring # disable snmp
firepower /monitoring* # commit-buffer
firepower /monitoring # show snmp
Name: snmp
  Admin State: Disabled
  Port: 161
  Is Community Set: No
  Sys Contact: R_Admin
  Sys Location:
firepower /monitoring #
```

関連コマンド

コマンド	説明
enable snmp	SNMP を有効にします。
set snmp	SNMP 設定パラメータを設定します。これは、コミュニティ、SNMP を担当するシステム担当者、およびホストの場所です。
show snmp	現在の SNMP 設定を表示します。

discard-buffer

保留中の設定変更をキャンセルするには、**discard-buffer** コマンドを使用します。

discard-buffer

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

任意のコマンドモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、コミットされていないすべての設定変更をキャンセルし、破棄します。任意のコンフィギュレーション コマンドの保留中は、コマンドプロンプトの前にアスタリスク (*) が表示されます。**discard-buffer** コマンドを入力すると、コマンドが破棄され、アスタリスクが消去されます。

例

次の例は、保留中の設定変更を破棄する方法を示しています。

```
FP9300-1# scope chassis 1
FP9300-1 /chassis # enable locator-led
FP9300-1 /chassis* # show configuration pending
  scope chassis 1
+   enable locator-led
  exit
FP9300-1 /chassis* # discard-buffer
FP9300-1 /chassis #
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit-buffer	設定の変更を保存または確認します。
show configuration pending	コミットされていない設定の変更を表示します。

download image

Firepower 4100/9300 シャーシに FXOS ファームウェア イメージをコピーするには、ファームウェア モードで **download image** コマンドを使用します。

論理デバイス ソフトウェア イメージを Firepower 4100/9300 シャーシにコピーするには、アプリケーション ソフトウェア (/ssa/app-software) モードで **download image** コマンドを使用します。

download image { **ftp:** | **scp:** | **sftp:** | **tftp:** | **usbA:** | **usbB:** }

構文の説明

ftp://server-ip-addr/path	(オプション) FTP (ファイル転送プロトコル) を使用してインポートするイメージファイルの URI を指定します。
scp://username@server-ip-addr/path	(オプション) SCP (セキュア コピー プロトコル) を使用してインポートするイメージファイルの URI を指定します。
sftp://username@server-ip-addr/path	(オプション) SFTP (SSH ファイル転送プロトコルまたはセキュア ファイル転送プロトコル) を使用してインポートするイメージファイルの URI を指定します。
tftp://username@server-ip-addr:port-num/path	(オプション) TFTP (トリビアル ファイル転送プロトコル) を使用してインポートするイメージファイルの URI を指定します。 (注) [TFTP] ではファイルサイズが 32 MB に制限されます。ファームウェア バンドルはそれよりも大幅にサイズが大きいため、ファームウェアのダウンロードに TFTP を使用しないことを推奨します。
usbA:/path	(オプション) 接続されている USB タイプ A デバイスからインポートされるイメージファイルへのパスを指定します。
usbB:/path	(オプション) 接続されている USB タイプ B デバイスからインポートされるイメージファイルへのパスを指定します。

コマンド モード

scope firmware/
scope ssa/scope app-software/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

イメージファイルアクセスのロケーションアドレスと認証情報、およびファイルの完全修飾名を使用していることを確認してください。

FXOSによって、ファブリックインターコネクットのブートフラッシュにファームウェアイメージが保存されます。

ファームウェアモードでは、**show package image_name detail** コマンドを使用して、イメージのダウンロードプロセスをモニタできます。出力表示は自動的に更新されないため、タスクのステータスに「Downloaded」が表示されるまで何度もコマンドを入力する必要があります。

ファームウェアモードおよびアプリケーションソフトウェアモードでは、**show download-task** コマンドを使用して、イメージのダウンロードプロセスをモニタできます。出力表示は自動的に更新されないため、何度もコマンドを入力する必要があります。

例

次の例は、SCPプロトコルを使用してファームウェアイメージファイルをダウンロードし、ダウンロードの進行状況をモニタする方法を示しています。

```
FP9300-A# scope firmware
FP9300-A /firmware # download image scp://user@192.168.1.1/images/fxos-k9.1.1.1.119.SPA
FP9300-A /firmware # show package fxos-k9.1.1.1.119.SPA detail
Download task:
File Name: fxos-k9.1.1.1.119.SPA
Protocol: scp
Server: 192.168.1.1
Userid:
Path:
Downloaded Image Size (KB): 5120
State: Downloading
Current Task: downloading image fxos-k9.1.1.1.119.SPA from
192.168.1.1 (FSM-STAGE:sam:dme:FirmwareDownloaderDownload:Local)
```

次の例は、SCPプロトコルを使用してソフトウェアイメージファイルをダウンロードし、ダウンロードの進行状況をモニタする方法を示しています。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # scope app-software
firepower /ssa/app-software # download image
scp://user@192.168.1.1/images/cisco-asa.9.4.1.65.csp
firepower /ssa/app-software # show download-task
Downloads for Application Software:
  File Name                Protocol  Server                Userid                State
-----
  cisco-asa.9.4.1.65.csp   Scp      192.168.1.1          user
  Downloaded
```

関連コマンド

コマンド	説明
show download-task	イメージファイルのダウンロードの進行状況を表示します。
show package	ファームウェアファイルのダウンロードの進行状況を表示します。
verify platform-pack	指定された FXOS プラットフォーム イメージを確認します。

enable (app-instance)

既存のアプリケーション インスタンスを有効にするには、app-instance モードで **enable** コマンドを使用します。

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

scope ssa/scope slot/scope app-instance

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、以前に無効にしたアプリケーション インスタンスを再び有効にできます。

例

次の例は、ステータスを含む現在のアプリケーション インスタンスを表示し、アプリケーション インスタンス モードを開始し、無効にされているアプリケーション 有効にする方法を示しています。

```
firepower # scope ssa
firepower /ssa # scope slot 2
firepower /ssa/slot # show app-instance
```

Application Instance:

App Name	Identifier	Admin State	Oper State	Running Version	Startup Version
Deploy Type	Profile Name	Cluster State	Cluster Role		
ftd1	IFT-63	Enabled	Online	6.3.0.12	6.3.0.12
Native		In Cluster	Slave		

Application Instance:

App Name	Identifier	Admin State	Oper State	Running Version	Startup Version
Deploy Type	Profile Name	Cluster State	Cluster Role		
ftd2	FTD-2	Disabled	Online	6.3.0.12	6.3.0.12
Container	bronze	Not Applicable	None		

```
firepower /ssa/slot # scope app-instance ftd2 FTD-2
firepower /ssa/slot/app-instance # enable
firepower /ssa/slot/app-instance* # commit-buffer
firepower /ssa/slot/app-instance #
```

関連コマンド

コマンド	説明
disable	app-instance モードでは、既存のアプリケーション インスタンスを無効にします。

コマンド	説明
scope app-instance	特定のアプリケーションインスタンスのアプリケーションモードを開始します。

enable (CC and FIPS security modes)

コモンクライテリアモードまたはFIPS（連邦情報処理標準）モードを有効にするには、セキュリティモードで **enable** コマンドを使用します。

enable {cc-mode|fips-mode}

構文の説明	cc-mode	コモンクライテリアモードを有効にするには、このキーワードを使用します。
	fips-mode	FIPS モードを有効にするには、このキーワードを使用します。
コマンドモード	scope security/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドがコミットされると、1つまたは複数のサービスへの接続が拒否される場合があります。また、システムの再起動が必要になります。



重要 FXOS リリース 2.0.1 より以前は、デバイスの最初の設定時に作成した SSH ホストキーが 1024 ビットにハードコードされていました。FIPS およびコモンクライテリア認定要件に準拠するには、この古いホストキーを破棄し、新しいホストキーを生成する必要があります（SSH ホストキーの作成と削除の詳細については、[create ssh-server](#) を参照）。これらの追加手順を実行しないと、コモンクライテリアモードを有効にしてデバイスをリブートした後に、SSH を使用してスーパーバイザに接続できなくなります。FXOS 2.0.1 以降を使用して初期設定を行った場合は、新しいホストキーを生成する必要はありません。

例

次の例は、セキュリティモードを開始し、FIPS モードを有効にする方法を示しています。

```
firepower # scope security
firepower /security # enable fips-mode
Warning: Connectivity to one or more services may be denied when committed.
Please consult the product's FIPS Security Policy documentation.
WARNING: A reboot of the system is required in order for the system to be operating in
a FIPS approved mode.

firepower /security* #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	disable (security modes)	CC モードまたは FIPS モードを無効にします。
	show cc-mode	現在のコモンクライテリア モードの管理状態および動作状態を表示します。
	show fips-mode	現在の FIPS モードの管理状態と動作状態を表示します。

enable (export-configuration)

既存のエクスポート設定オブジェクトを再び有効にするには、export-config モードで **enable** コマンドを使用します。

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

scope system/scope export-config

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、設定を再びエクスポートする前に、以前バックアップしたエクスポート設定オブジェクトを再び有効にできます。現在のシステム設定は、**commit-buffer** コマンド発行時のオブジェクト パラメータに従ってエクスポートされます。

例

次の例は、以前エクスポートした設定オブジェクトを開始し、その範囲を有効にし、設定のバックアップを開始し、エクスポートが進行中であることを確認する方法を示しています。

```
firepower # scope system
firepower /system # scope export-config 192.168.1.2
firepower /system/export-config #enable
firepower /system/export-config* #commit-buffer
firepower /system/export-config #show
```

Export Configuration Task:

Hostname	User	Protocol	Admin	State	Status	Description
192.168.1.2	user1	Scp	Enabled		Exporting	

関連コマンド

コマンド	説明
disable	既存のエクスポート設定オブジェクトを無効にします。
scope export-config	既存のエクスポート設定オブジェクトを入力します。

enable (interface)

現在のインターフェイスを有効にするには、インターフェイスモードで **enable** コマンドを使用します。

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

scope eth-uplink/scope fabric/interface

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

インターフェイスを有効または再度有効にするには、このコマンドを使用します。

例

次の例は、インターフェイスを有効にして、そのステータスを確認する方法を示しています。

```
firepower # scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope fabric
firepower /eth-uplink #/fabric # scope interface Ethernet1/5
firepower /eth-uplink/fabric/interface # enable
firepower /eth-uplink/fabric/interface* # commit-buffer
firepower /eth-uplink/fabric/interface # show
```

```
Interface:
  Port Name          Port Type          Admin State Oper State          Allowed Vlan State
Reason
-----
-----
Ethernet1/5         Data               Enabled      Up                   All
firepower /eth-uplink/fabric/interface #
```

関連コマンド

コマンド	説明
disable	現在のインターフェイスを無効にします。
set	インターフェイスモードで、インターフェイス コンフィギュレーション パラメータを設定します。
show interface	インターフェイスの設定とステータスに関する情報を表示します。

enable (port-channel)

現在のポートチャネル (EtherChannel) を有効にするには、ポートチャネルモードで **enable** コマンドを使用します。

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

scope eth-uplink/scope fabric/port-channel

コマンド履歴

リリース

変更内容

1.1(1)

コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ポートチャネルを有効または再度有効にするには、このコマンドを使用します。

例

次の例は、新しいポートチャネルを作成し、それを有効にしてメンバーポートを追加する方法を示しています。

```
firepower # scope eth-uplink
firepower /eth-uplink/fabric # scope fabric a
firepower /eth-uplink/fabric # create port-channel 4
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # enable
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/1
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/2
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/3
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/4
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel* # commit-buffer
firepower /eth-uplink/fabric/port-channel #
```

関連コマンド

コマンド	説明
create member-port	ポートチャネルにメンバーポートを追加します。
disable	現在のポートチャネルを無効にします。
set (port-channel)	既存のポートチャネルのパラメータを設定または変更します。
show port-channel	ポートチャネルの設定およびステータス情報を表示します。

enable reservation

永久ライセンス予約を有効にするには、**enable reservation** コマンドを使用します。

enable reservation

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

ライセンス (/license) モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

Firepower 4100/9300 シャーシに永久ライセンスを割り当てる前にライセンス予約を有効にします。

例

次の例は、ライセンス モードを開始し、予約モードを有効にする方法を示しています。

```
FP9300-A # scope license
FP9300-A /license # enable reservation
FP9300-A /license #
```

関連コマンド

コマンド	説明
disable reservation	永久ライセンス予約を有効にします。
show license	現在のライセンス情報を表示します。

enable snmp

このデバイスで Simple Network Management Protocol (SNMP) 処理を有効にするには、**enable snmp** コマンドを使用します。

enable snmp

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

scope monitoring/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用してこのデバイスの SNMP エージェントを有効にすると、SNMP コミュニティを作成し、SNMP ユーザとトラップを作成できます。

例

次の例は、モニタリングモードを開始し、SNMP 処理を有効にする方法を示しています。

```
firepower # scope monitoring
firepower /monitoring # enable snmp
firepower /monitoring* # commit-buffer
firepower /monitoring #
```

関連コマンド

コマンド	説明
disable snmp	SNMP をディセーブルにします。
set snmp	SNMP 設定パラメータを設定します。これは、コミュニティ、SNMP を担当するシステム担当者、およびホストの場所です。
show snmp	現在の SNMP 設定を表示します。

end

CLI の EXEC (トップ レベル) モードに戻るには、**end** コマンドを使用します。

end

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

任意のコマンドモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、サービスプロファイルモードから CLI の最高レベルのモードに戻る方法を示しています。

```
FP9300-A # scope org Test
FP9300-A /org # scope service-profile Sample
FP9300-A /org/service-profile # end
FP9300-A #
```

関連コマンド

コマンド	説明
top	任意のモードからトップ レベルモードを開始します。

enter

管理対象オブジェクトを開始するには、適切なコマンドモードで該当する **enter** コマンドを使用します。通常、指定されたオブジェクトが存在しない場合は、オブジェクトが作成されます。

enter *object_type* *name* [*parameters*]

構文の説明	<p><i>object_type</i> 開始するオブジェクトのタイプ。例には、ローカル ユーザ アカウントと組織が含まれています。</p>
	<p><i>name</i> 開始する特定のオブジェクトの名前。</p>
	<p>パラメータ (オプション) オブジェクトの識別に必要な追加のプロパティまたはパラメータ。詳細については、特定のオブジェクトに対する create コマンドの説明を参照してください。</p>
コマンドモード	<p>開始対象のオブジェクトのタイプに応じて異なります。詳細については、特定のオブジェクトに対する create コマンドの説明を参照してください。</p>
コマンド履歴	<p>履歴情報については、特定のオブジェクトに対する create コマンドの説明を参照してください。</p>
使用上のガイドライン	<p>オブジェクトは、管理可能な物理コンポーネントエンティティまたは論理エンティティを抽象的に表現したものです。たとえば、シャーシ、セキュリティ モジュール、ネットワーク モジュール、ポート、プロセッサは、管理対象オブジェクトとして表現される物理コンポーネントです。また、ライセンス、ユーザロール、プラットフォームポリシーは、管理対象オブジェクトとして表現される論理エンティティです。</p> <p>FXOS には、オブジェクト管理用に一般的な 4 つのコマンド (create、delete、enter、scope) があります。たとえば、ローカル ユーザ アカウントの作成、ローカル ユーザ アカウントの削除、ローカル ユーザ アカウントの入力を行い、そのアカウントのプロパティを割り当てまたは変更することができます。また、ローカル ユーザ アカウントを「調査」し、プロパティを割り当てまたは変更することもできます。</p> <p>通常、これらのオブジェクト管理コマンドごとに利用可能なキーワードとオプションは同じであるため、さまざまなオブジェクト コマンドの create バージョンだけについて説明します。つまり、特定のオブジェクトの delete コマンドの詳細については、そのオブジェクトの create コマンドの説明を参照してください。たとえば、既存のローカル ユーザ アカウントの入力に関連する情報については、create local-user を参照してください。</p>

例

次の例は、セキュリティ モードを開始して、ローカル ユーザ アカウントを入力し、アカウントの詳細を表示する方法を示しています。

```

firepower # scope security
firepower /security # enter local-user test_user
firepower /security/local-user # show detail
Local User test_user:
  First Name: test
  Last Name: user
  Email: test_user@testuser.com
  Phone:
  Expiration: Never
  Password: ****
  User lock status: Not Locked
  Account status: Active
  User Roles:
    Name: admin
    Name: read-only
  User SSH public key:
firepower /security/local-user #

```

関連コマンド

コマンド	説明
create local-user	新規のローカルユーザアカウントを作成します。
enter local-user	ローカルユーザアカウントを追加または編集します。
delete local-user	既存のローカルユーザアカウントを削除します。
scope local-user	既存のローカルユーザアカウントを入力します。

erase

アプライアンスからすべてのユーザー設定を消去するか、アプライアンスの要素を安全に消去するには、**erase** コマンドを使用します。

erase {**configuration**|**secure** {**chassis**|**security_modulesupervisor**}}

構文の説明

configuration	このキーワードを使用すると、シャーシのすべてのユーザー設定情報が削除され、工場出荷時のデフォルト設定に戻ります。
secure	指定したアプライアンスコンポーネントを安全に消去するには、このオプションを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> • chassis : シャーシを安全に消去するには、このキーワードを使用します。 • security_module module_id : 指定したモジュールを安全に消去するには、このオプションを使用します。 • supervisor : シャーシスーパーバイザを安全に消去するには、このキーワードを使用します。

コマンドモード

connect local-mgmt/

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.0.1	コマンドが追加されました。
2.7(1)	secure オプションが追加されました。

使用上のガイドライン

erase configuration コマンドを実行すると、シャーシのすべてのユーザー設定情報が削除され、工場出荷時のデフォルト設定に戻ります。

erase secure コマンドにより、指定したアプライアンスコンポーネントが安全に消去されます。つまり、単にデータが削除されるだけでなく、物理ストレージが「ワイプ」（完全に消去）されます。これは、ハードウェアストレージコンポーネントが残存データやスタブを保持しない状態で、アプライアンスを転送または返却する際に重要です。



- (注) 完全消去中にデバイスが再起動します。これは、SSH接続が終了したことを意味します。したがって、シリアルコンソールポート接続を介して完全消去を実行することをお勧めします。

例

次の例は、シャーシのすべてのユーザー設定情報を削除し、工場出荷時のデフォルト設定に戻す方法を示しています。

```
firepower# connect local-mgmt
firepower(local-mgmt)# erase configuration
All configurations will be erased and system will reboot. Are you sure? (yes/no):
```

次の例は、セキュリティモジュール 2 (security_module 2) を安全に消去する方法を示しています。

```
firepower# connect local-mgmt
firepower# erase secure security_module 2
The physical storages in security module will be securely erased.
ALL DATA AND IMAGES WILL BE LOST AND CANNOT BE RECOVERED!
After the erase the module will reboot and need to be re-initialized.
DO NOT POWER OFF THE DEVICE IF YOU DECIDE TO PERFORM THIS TASK!
Are you sure? (yes/no):
```

関連コマンド

コマンド	説明
decommission-secure	指定されたモジュールを安全に消去します。

exit

現在の CLI セッションを終了してデバイスから切断したり、接続されたオブジェクト モードを終了して EXEC レベルに戻るには、**exit** コマンドを使用します。

exit

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

任意のコマンド モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

例

次の例は、現在のトップレベルの CLI セッションを終了し、このデバイスから切断する方法を示しています。

```
FP9300-A # exit
```

次の例は、ローカル管理接続を開始および終了する方法を示しています。

```
FP9300-A # connect local-mgmt
FP9300-A(local-mgmt) # exit
FP9300-A #
```

関連コマンド

コマンド	説明
connect	別の管理対象オブジェクトに接続します。
end	CLI の最高レベル モードに戻ります。

export-config

現在のシステム設定をリモートサーバにXMLファイルとしてエクスポートするには、**export-config** コマンドを使用します。

export-config {*URL* **disabled** | **enabled**}

構文の説明	<i>URL</i>	エクスポートされたXMLイメージファイルに、ユーザアカウント名、トランスポートプロトコル、ファイル名など、リモートシステムへのフルパスを指定します。次のトランスポートプロトコルを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> • ftp://username@hostname/path/image_name • scp://username@hostname/path/image_name • sftp://username@hostname/path/image_name • tftp://username@hostname/path/image_name
	disabled	ポリシー管理状態を無効にします。コンフィギュレーションファイルはエクスポートされません。
	enabled	ポリシー管理状態を有効にします。コンフィギュレーションファイルがすぐにエクスポートされます。
コマンドモード	scope system/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1.3	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

設定エクスポート機能を使用すると、Firepower 4100/9300 シャーシの論理デバイスとプラットフォーム構成設定を含むXMLファイルをリモートサーバにエクスポートできます。このコンフィギュレーションファイルを後でインポートして Firepower 4100/9300 に迅速に構成設定を適用し、既知の構成に戻したり、システム障害から回復させたりすることができます。

次の点に注意してください。

- FXOS 2.6.1以降、設定のエクスポート中にパスワードやその他の秘密キーなどの機密情報を暗号化する際に使用するキーを指定する必要があります。設定をエクスポートする前に、パスワードやその他の秘密キーを指定しておく必要があります。

また、ファイルが 2.6.1 より前の FXOS リリースからファイルがエクスポートされない限り、エクスポートされた設定をインポートする場合にターゲットシステムで、エクスポート時に同じキーが使用されるように設定する必要があります。この場合、ターゲットシステムは暗号化キーをチェックせず、インポートできます。

- コンフィギュレーションファイルの内容は、修正しないでください。コンフィギュレーションファイルが変更されると、そのファイルを使用するコンフィギュレーションインポートが失敗する可能性があります。
- 用途別のコンフィギュレーション設定は、コンフィギュレーションファイルに含まれていません。用途別の設定やコンフィギュレーションを管理するには、アプリケーションが提供するコンフィギュレーションバックアップツールを使用する必要があります。
- 既存のバックアップファイルが上書きされるのを回避するには、エクスポート操作時にファイル名を変更するか、既存のファイルを別の場所にコピーしてください。

トランスポートプロトコルとリモートサーバの設定に応じて、ユーザの接続用パスワードの入力が必要になる場合があります。

新しいコンフィギュレーションファイルをエクスポートすると、新しいファイルがまだエクスポートされていないことを示すアスタリスクが付いた `export-config` モード (`system/export-config`) が自動的に開始されます。プロセスを開始するには、`commit-buffer` と入力します。

例

次の例は、論理デバイスとプラットフォーム構成設定を含む XML ファイルをリモートサーバにエクスポートする方法を示しています。

```
firepower # scope system
firepower /system # export-config scp://user1@192.168.1.2:/export/cfg-backup.xml enabled
Password:
firepower /system/export-config* # commit-buffer
firepower /system/export-config #
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>cfg-export-policy</code>	設定のエクスポートポリシーを指定します。
<code>import-config</code>	以前にエクスポートした XML コンフィギュレーションファイルをこのアプライアンスにコピーします。
<code>set password-encryption-key</code>	設定のエクスポート中に機密情報を暗号化するときに使用されるキーを指定します。

generate password

特殊文字の有無を指定して固定長のランダムパスワードを生成するには、**generate password** コマンドを使用します。

generate password *password*

構文の説明	<i>password</i>	ログイン時にユーザーが使用するパスワード。
コマンドモード	scope security	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.10(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 特殊文字の有無を指定して固定長のランダムパスワードを生成することができます。

例

次の例は、セキュリティモードを開始し、特殊文字の有無を指定して固定長のランダムパスワードを生成する方法を示しています。

```
firepower # scope security
firepower # create local-user admin2
firepower /security/local-user #

firepower /security/local-user # generate password
      8-127 Password length

firepower /security/local-user # generate password 10 with
      with-special-char      With Special Char
      without-special-char   Without Special Char

firepower /security/local-user # generate password 10 with-special-char
@!D4%v1wCN
```

関連コマンド	コマンド	説明
	set password	ユーザ アカウントのパスワードを設定します。

import-config

以前にエクスポートした XML コンフィギュレーション ファイルをインポートするには、**import-config** コマンドを使用します。

import-config {*URL* **disabled**|**enabled**}

構文の説明

<i>URL</i>	トランスポート プロトコルやファイル名など、リモートシステムへのフルパスをエクスポートする XML イメージファイルに指定します。次のトランスポートプロトコルを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> • ftp: //username@hostname/path/image_name • scp: //username@hostname/path/image_name • sftp: //username@hostname/path/image_name • tftp: //username@hostname/path/image_name
disabled	ポリシー管理状態を無効にします。コンフィギュレーションファイルはインポートされません。
enabled	ポリシー管理状態を有効にします。コンフィギュレーションファイルがすぐにインポートされます。

コマンドモード

scope system/

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.0.1	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

設定エクスポート機能を使用すると、Firepower 4100/9300 シャーシの論理デバイスとプラットフォーム構成設定を含む XML ファイルをリモートサーバにエクスポートできます。このコンフィギュレーション ファイルを後でインポートして **Firepower 4100/9300** に迅速に構成設定を適用し、既知の構成に戻したり、システム障害から回復させたりすることができます。

次の点に注意してください。

- **FXOS 2.6.1**以降、設定のエクスポート中にパスワードやその他の秘密キーなどの機密情報を暗号化する際に使用するキーを指定する必要があります。設定をエクスポートする前に、パスワードやその他の秘密キーを指定しておく必要があります。

また、ファイルが **2.6.1** より前の **FXOS** リリースからファイルがエクスポートされない限り、エクスポートされた設定をインポートする場合にターゲットシステムで、エクスポート時に同じキーが使用されるように設定する必要があります。この場合、ターゲットシステムは暗号化キーをチェックせず、インポートできます。

- コンフィギュレーション ファイルの内容は、修正しないでください。コンフィギュレーション ファイルが変更されると、そのファイルを使用するコンフィギュレーション インポートが失敗する可能性があります。
- 用途別のコンフィギュレーション設定は、コンフィギュレーションファイルに含まれていません。用途別の設定やコンフィギュレーションを管理するには、アプリケーションが提供するコンフィギュレーションバックアップ ツールを使用する必要があります。
- 4100/9300 シャーシへのコンフィギュレーションのインポート時、シャーシのすべての既存のコンフィギュレーション（論理デバイスを含む）は削除され、インポートファイルに含まれるコンフィギュレーションに完全に置き換えられます。
- コンフィギュレーション ファイルのエクスポート元と同じ Firepower 4100/9300 シャーシだけにコンフィギュレーション ファイルをインポートすることをお勧めします。
- インポート先の Firepower 4100/9300 シャーシのプラットフォーム ソフトウェア バージョンは、エクスポートしたときと同じバージョンになるはずですが、異なる場合は、インポート操作の成功は保証されません。シスコは、Firepower 4100/9300 シャーシをアップグレードしたりダウングレードしたりするたびにバックアップ設定をエクスポートすることを推奨します。
- インポート先の Firepower 4100/9300 シャーシでは、エクスポートしたときと同じスロットに同じネットワーク モジュールがインストールされている必要があります。
- インポート先の Firepower 4100/9300 シャーシでは、インポートするエクスポート ファイルに定義されているすべての論理デバイスに、正しいソフトウェア アプリケーション イメージがインストールされている必要があります。
- インポートするコンフィギュレーションファイルに、そのアプリケーションにエンドユーザライセンス契約書（EULA）がある論理デバイスが含まれていると、コンフィギュレーションをインポートする前に、そのアプリケーションの EULA が Firepower 4100/9300 シャーシで受け入れられている必要があります。受け入れられていない場合、操作は失敗します。

トランスポート プロトコルとリモート サーバの設定に応じて、リモート ユーザの接続用パスワードの入力が必要になる場合があります。

show fsm status コマンドを入力すると、インポート ステータスを確認し、その進行状況を確認することができます。次の例を参照してください。タスクの進行状況に応じて、コマンド入力が複数回必要になる場合があります。

例

次の例は、論理デバイスとプラットフォーム構成設定を含む XML ファイルをリモート サーバからインポートする方法を示しています。

```
firepower # scope system
firepower /system # import-config scp://user1@192.168.1.2:/export/cfg-backup.xml enabled
Password:
Warning: After configuration import any changes on the breakout port configuration will
cause the system to reboot
```



```

firepower /system* # commit-buffer
firepower /system # show fsm status

Hostname: 192.168.1.2

FSM 1:
  Remote Result: Not Applicable
  Remote Error Code: None
  Remote Error Description:
  Status: Import Wait For Switch
  Previous Status: Import Config Breakout
  Timestamp: 2016-01-03T15:45:03.963
  Try: 0
  Progress (%): 97
  Current Task: updating breakout port
configuration (FSM-STAGE:sam:dme:MgmtImporterImport:configBreakout)

```

関連コマンド

コマンド	説明
cfg-export-policy	エクスポート ポリシーを設定します。
export-config	現在のシステム設定をリモートサーバに XML ファイルとしてエクスポートします
set password-encryption-key	設定のエクスポート中に機密情報を暗号化するときに使用されるキーを指定します。

install

予約認証コードをインストールするには、**install** コマンドを使用します。

install *code*

構文の説明	<i>code</i>	Smart Software Manager から取得した予約認証コード。
コマンドモード	予約 (/license/reservation) モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 認証コードがすでに生成されている場合は、そのコードをインストールする必要があります。

例

次の例は、予約認証コードをインストールする方法を示しています。

```
FP9300-A# scope license
FP9300-A /license # scope reservation
FP9300-A /license/reservation # install <code>
FP9300-A /license/reservation* #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	request universal	予約要求コードを生成します。
	show license	現在のライセンス情報を表示します。

install firmware

以前にダウンロードしたファームウェアアップグレードパッケージをインストールするには、**install firmware** コマンドを使用します。

install firmware pack-version version_number

構文の説明	pack-version <i>version_number</i>	インストールするファームウェアパッケージのバージョンを指定します。 (注) パッケージ <i>version_number</i> はイメージファイル名ではありません (通常はファイル名の一部)。 show コマンドを使用すると、パッケージ <i>version_number</i> を特定できます。
コマンドモード	ファームウェア インストール モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用するには、管理者権限が必要です。通常、アップグレードのインストールプロセスには 20 ~ 30 分かかり、プロセス中にシステムが再起動します。

インストールを開始する前に、現在の深刻/重大な障害を確認し、現在の設定をバックアップします。

アップグレードは、パッケージの検証とその後のインストールの2段階のプロセスです。各ステップの開始時に続行するかどうかの確認があります。いずれかのプロンプト表示で **no** と入力すると、プロセスは終了します。

show detail コマンドを使用すると、インストールプロセスをモニタできます。

例

次の例は、以前にダウンロードしたファームウェアアップグレードパッケージをインストールする方法を示しています。

```
FP9300-A# scope firmware
FP9300-A /firmware # scope firmware-install
FP9300-A /firmware/firmware-install # install firmware pack-version 1.0.16
Verifying FXOS firmware package 1.0.16. Verification could take several minutes.
Do you want to proceed? (yes/no):yes

FXOS SUP ROMMON: Upgrade from 1.0.10 to 1.0.10
FXOS SUP FPGA : Upgrade from 1.04 to 1.05
This operation upgrades SUP firmware on Security Platform.
Here is the checklist of things that are recommended before starting the install operation
(1) Review current critical/major faults
(2) Initiate a configuration backup
Attention:
```

```

The system will be reboot to upgrade the SUP firmware.
The upgrade operation will take several minutes to complete.
PLEASE DO NOT POWER RECYCLE DURING THE UPGRADE.
Do you want to proceed? (yes/no):yes
Upgrading FXOS SUP firmware software package version 1.0.10
command executed

```

関連コマンド

コマンド	説明
scope firmware-install	firmware-installation モードを開始します。
show download-task	ファームウェアパッケージのダウンロードに関する情報を表示します。
show (firmware-install)	firmware-installation モードでは、ファームウェアパッケージ情報が表示されます。

install platform

セキュリティプラットフォーム コンポーネントでファームウェアおよびソフトウェアをアップグレードするには、**install platform** コマンドを使用します。

install platform platform-vers version_number

構文の説明	platform-vers <i>version_number</i>	インストールするプラットフォームパッケージのバージョンを指定します。
コマンドモード	自動インストール (/firmware/auto-install) モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.4(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用するには、管理者権限が必要です。アップグレードプロセスには通常 20 ～ 30 分かかります。

インストールを開始する前に、現在の深刻/重大な障害を確認し、現在の設定をバックアップします。

auto-install モードで **show fsm status expand** コマンドを使用すると、インストールプロセスをモニタできます。

アップグレードインストールプロセスを完了するには、プライマリ ファブリック インターコネクットの再起動を確認する必要があります。

例

次の例は、プラットフォームアップグレードパッケージをインストールする方法を示しています。

```
FP9300-A# scope firmware
FP9300-A /firmware # scope auto-install
FP9300-A /firmware/auto-install # install platform platform-vers 2.3(1.51)
The currently installed FXOS platform software package is 2.2(2.19)

INFO: There is no service impact to install this FXOS platform software 2.3(1.51)

This operation upgrades firmware and software on Security Platform Components
Here is the checklist of things that are recommended before starting Auto-Install
(1) Review current critical/major faults
(2) Initiate a configuration backup
Do you want to proceed? (yes/no):
```

関連コマンド	コマンド	説明
	download image	Firepower 4100/9300 シャーシに FXOS ソフトウェア イメージをダウンロードします。
	show validate-task	イメージ検証プロセスのステータスを表示します。

mgmt-port (connect local-mgmt)

管理ポート情報の管理ステータスを表示および設定するには、**mgmt-port** コマンドを使用します。

mgmt-port

構文の説明	mgmt-port	管理ポート情報を表示します。
コマンドモード	connect local-mgmt	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	デフォルトでは、このコマンドは管理ポート情報を表示します。	

例

次の例は、管理ポート情報を表示する方法を示しています。

```
firepower#
firepower# connect local-mgmt...

firepower(local-mgmt) #mgmt-port
<CR>
  no-shut Management port up <===== Administratively enable the chassis management
interface.
  shut Management port down <===== Administratively disable/shutdown the chassis
management interface.
```

ping (connect local-mgmt)

基本的なネットワーク接続をテストする目的で、ネットワーク上の別のデバイスの IPv4 アドレスを使って ping を実行するには、**ping** コマンドを使用します。

```
ping {hostname|IPv4_address} [count number_packets] | [deadline seconds] | [interval seconds] | [packet-size bytes]
```

構文の説明	
<i>hostname IPv4_address</i>	接続するネットワーク デバイスのホスト名または IP アドレス。このホスト名の長さは最大 510 文字です。
count <i>number_packets</i>	(オプション) 送信する ping パケットの数。範囲は 1～2147483647 パケットです。
deadline <i>seconds</i>	(オプション) 応答パケットが受信されなかった場合にパケットの送信を継続する最大時間。この時間が経過すると、ping は終了します。範囲は 1～60 秒です。
interval <i>seconds</i>	(オプション) ping パケット間の時間 (秒単位)。範囲は 1～60 秒です。デフォルトは 1 秒です。
packet-size <i>bytes</i>	(オプション) ping パケットに追加するデータ バイト数。範囲は 1～65468 バイトです。デフォルトは 56 バイトで、8 バイトが ICMP ヘッダーに追加されると、64 バイト パケットになります。

コマンドモード connect local-mgmt

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、指定されたホストに ICMP エコー要求パケットを送信することにより、シャーシ管理インターフェイスから外部ネットワークへの基本的な IP 接続をテストします。

例

次の例は、ローカル管理シェルに接続し、ネットワーク上の別のデバイスに対して ping 接続を 12 回実行する方法を示しています。

```
firepower# connect local-mgmt
firepower(local-mgmt)# ping 198.51.100.10 count 12
PING 198.51.100.10 (198.51.100.10) from 203.0.113.5 eth0: 56(84) bytes of data.
64 bytes from 198.51.100.10: icmp_seq=1 ttl=61 time=0.264 ms
64 bytes from 198.51.100.10: icmp_seq=2 ttl=61 time=0.219 ms
64 bytes from 198.51.100.10: icmp_seq=3 ttl=61 time=0.234 ms
64 bytes from 198.51.100.10: icmp_seq=4 ttl=61 time=0.205 ms
```



```
64 bytes from 198.51.100.10: icmp_seq=5 ttl=61 time=0.216 ms
64 bytes from 198.51.100.10: icmp_seq=6 ttl=61 time=0.251 ms
64 bytes from 198.51.100.10: icmp_seq=7 ttl=61 time=0.223 ms
64 bytes from 198.51.100.10: icmp_seq=8 ttl=61 time=0.221 ms
64 bytes from 198.51.100.10: icmp_seq=9 ttl=61 time=0.227 ms
64 bytes from 198.51.100.10: icmp_seq=10 ttl=61 time=0.224 ms
64 bytes from 198.51.100.10: icmp_seq=11 ttl=61 time=0.261 ms
64 bytes from 198.51.100.10: icmp_seq=12 ttl=61 time=0.261 ms

--- 198.51.100.10 ping statistics ---
12 packets transmitted, 12 received, 0% packet loss, time 11104ms
rtt min/avg/max/mdev = 51.005/51.062/51.164/0.064 ms
firepower(local-mgmt)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ping6	基本的なネットワーク接続をテストする目的で、ネットワーク上の別のデバイスの IPv6 アドレスを使って ping を実行します。
traceroute	指定された宛先 (IPv4 アドレス) へのルートをトレースします。

ping6 (connect local-mgmt)

ネットワーク上の別のデバイスの IPv6 アドレスを使って ping を実行するには、**ping6** コマンドを使用します。

```
ping6 {hostname|IPv6_address} [count number_packets] | [deadline seconds] | [interval seconds] | [mtu-hint {do|dont|want}] | [packet-size bytes]
```

構文の説明	<i>hostname IPv6_address</i>	接続するネットワーク デバイスのホスト名または IP アドレス。このホスト名の長さは最大 510 文字です。
	count <i>number_packets</i>	(オプション) 送信する ping パケットの数。範囲は 1 ~ 2147483647 パケットです。
	deadline <i>seconds</i>	(オプション) 応答パケットが受信されなかった場合にパケットの送信を継続する最大時間。この時間が経過すると、ping は終了します。範囲は 1 ~ 60 秒です。
	interval <i>seconds</i>	(オプション) ping パケット間の時間 (秒単位)。範囲は 1 ~ 60 秒です。デフォルトは 1 秒です。
	mtu-hint {do dont want}	(オプション) パスの MTU 検出方法。ヒントは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • do : ローカル パケットの場合でもフラグメンテーションを禁止します。do-not-fragment (DF) フラグを設定します。 • dont : フラグメンテーションを禁止します。ただし、DF フラグを設定しません。 • want : パケット サイズが大きい場合に PMTU 検出と、ローカルでのフラグメンテーションを実行することがあります。
	packet-size <i>bytes</i>	(オプション) ping パケットに追加するデータ バイト数。範囲は 1 ~ 65468 バイトです。デフォルトは 56 バイトで、8 バイトが ICMP ヘッダーに追加されると、64 バイト パケットになります。

コマンド モード	connect local-mgmt
----------	--------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(4)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、指定されたホストに ICMP エコー要求パケットを送信することにより、シャーシ管理インターフェイスから外部ネットワークへの基本的な IPv6 接続をテストします。

例

次の例は、ローカル管理シェルに接続し、ネットワーク上の別のデバイスに対して ping 接続を 12 回実行する方法を示しています。

```
firepower# connect local-mgmt
firepower(local-mgmt)# ping6 2001:DB8:0:ABCD::1 count 12
PING 2001:DB8:0:ABCD::1 (2001:DB8:0:ABCD::1) from 2001:DB8:1::1 eth0: 56(84) bytes of
data.
64 bytes from 2001:DB8:0:ABCD::1: icmp_seq=1 ttl=61 time=0.264 ms
64 bytes from 2001:DB8:0:ABCD::1: icmp_seq=2 ttl=61 time=0.219 ms
64 bytes from 2001:DB8:0:ABCD::1: icmp_seq=3 ttl=61 time=0.234 ms
64 bytes from 2001:DB8:0:ABCD::1: icmp_seq=4 ttl=61 time=0.205 ms
64 bytes from 2001:DB8:0:ABCD::1: icmp_seq=5 ttl=61 time=0.216 ms
64 bytes from 2001:DB8:0:ABCD::1: icmp_seq=6 ttl=61 time=0.251 ms
64 bytes from 2001:DB8:0:ABCD::1: icmp_seq=7 ttl=61 time=0.223 ms
64 bytes from 2001:DB8:0:ABCD::1: icmp_seq=8 ttl=61 time=0.221 ms
64 bytes from 2001:DB8:0:ABCD::1: icmp_seq=9 ttl=61 time=0.227 ms
64 bytes from 2001:DB8:0:ABCD::1: icmp_seq=10 ttl=61 time=0.224 ms
64 bytes from 2001:DB8:0:ABCD::1: icmp_seq=11 ttl=61 time=0.261 ms
64 bytes from 2001:DB8:0:ABCD::1: icmp_seq=12 ttl=61 time=0.261 ms

--- 2001:DB8:0:ABCD::1 ping statistics ---
12 packets transmitted, 12 received, 0% packet loss, time 11104ms
rtt min/avg/max/mdev = 51.005/51.062/51.164/0.064 ms
firepower(local-mgmt)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ping	基本的なネットワーク接続をテストする目的で、ネットワーク上の別のデバイスの IPv4 アドレスを使って ping を実行します。
traceroute6	指定された宛先 (IPv6 アドレス) へのルートをトレースします。

power

モジュールの電源を切断するには、**power** コマンドを使用します。

power { **down** [**soft-followed-by-hard** | **soft-shut-down**] | **up** }

構文の説明

soft-followed-by-hard	(オプション) このキーワードを使用してモジュールの電源を「グレースフル」に切断すると、SSP オペレーティングシステムがシャットダウンするまで最大 45 分待機し、その後、OS のシャットダウン状態に関係なくモジュールの電源が切断されます。
soft-shut-down	(オプション) このキーワードを使用してモジュールの電源をグレースフルに切断すると、システムは SSP オペレーティングシステムのシャットダウンを無期限に待機します。モジュールは、SSP OS が正常にシャットダウンされた後にのみ電源が切断されます。

コマンドモード

サービス プロファイル モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

power down コマンドでいずれのオプション キーワードも指定しない場合は、モジュールのオペレーティングシステムをグレースフルにシャットダウンせずに、モジュールの電源がすぐに切断されます。

電源をオフにする前にモジュールの設定をバックアップすることを推奨します。

例

次の例は、サービス プロファイル モードを開始し、ソフト シャットダウンでモジュールの電源をオフにする方法を示しています。

```
FP9300-A # scope service-profile server 1/1
FP9300-A /org/service-profile # power down soft-shut-down
FP9300-A /org/service-profile* # commit-buffer
FP9300-A /org/service-profile #
```

関連コマンド

コマンド	説明
shutdown	デバイスをシャットダウンします。

reboot

シャーシまたはファブリックインターコネクトを再起動するには、**reboot** コマンドを使用します。

```
(local-mgmt) # reboot

/chassis # reboot [no-prompt | reason]
```

構文の説明

ローカル管理モードでは、このコマンドに引数またはキーワードはありません。

no-prompt

(オプション) シャーシモードでこのキーワードを使用すると、再起動をすぐに開始できます。それ以外の場合、再起動の開始には **commit-buffer** が必要です。

reason

(オプション) シャーシモードでは、再起動ログに追加するテキスト文字列を入力できます。最大 510 文字まで入力できます。

コマンドモード

シャーシモード
ローカル管理モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

再起動前にシステム設定をバックアップすることを推奨します。

ローカル管理モードでは、このコマンドにキーワードまたはオプションはありません。



(注) 「グレースフルな」システムのシャットダウンと再起動を実行するため、シャーシモードでこのコマンドを使用することを推奨します。

例

次の例は、ローカル管理シェルを開始し、システムを再起動する方法を示しています。

```
FP9300-A # connect local-mgmt
FP9300-A (local-mgmt)# reboot
Before rebooting, please take a configuration backup.
Do you still want to reboot? (yes/no)::yes
nohup: ignoring input and appending output to `nohup.out'

Broadcast message from root (Fri Apr 13 17:12:49 2018):
```

```
All shells being terminated due to system /sbin/reboot
```

次の例は、ジャーシモードを開始し、システムを再起動する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope chassis 1
FP9300-A /chassis # reboot
This command will reboot the chassis when committed
FP9300-A /chassis* # commit-buffer
Starting chassis shutdown. Monitor progress with the command "show fsm status"
System is safe to power off after "System halted." message is seen
FP9300-A /chassis #
Broadcast message from root@DOC-FP9300-A (Fri Apr 13 16:27:04 2018):

All shells being terminated due to system /sbin/shutdown
```

関連コマンド

コマンド	説明
shutdown	デバイスをシャットダウンします。

reinstall

論理デバイスのブートストラップ設定を変更するには、**reinstall** コマンドを使用してアプリケーションインスタンスを再インストールします。

reinstall

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

scope slot/scope app/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

論理デバイスのブートストラップ設定は、変更することができます。新しい設定を使用してアプリケーションを再インストールすることも、変更を保存しておいて後で新しい設定を使用してアプリケーションインスタンスを再インストールすることもできます。

例

次の例は、**license/licdebu** モードを開始し、スマート ソフトウェア ID 証明書とライセンス権限付与を手動で更新する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope slot 2
FP9300-A /slot # scope app-instance asa cluster1
FP9300-A /slot/app-instance # reinstall app
FP9300-A /slot/app-instance # Do you want to reinstall the app now [Y/N]? Y
...
```

関連コマンド

コマンド	説明
register	論理デバイスのブートストラップ設定を変更して、アプリケーションインスタンスを再起動します。

register

この Firepower 4100/9300 デバイスに Smart Software Manager のアカウントを登録するには、**register** コマンドを使用します。

register idtoken id_token

構文の説明	<i>id_token</i>	Smart Software Manager サテライトから取得した登録トークン。
コマンドモード	ライセンス (/license) モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	Smart Software Manager または Smart Software Manager サテライトから登録トークンを要求してコピーします。詳細については、『 Cisco Smart Software Manager Satellite User Guide 』を参照してください。	

例

次の例は、このデバイスを登録する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope license
FP9300-A /license # register idtoken ZGFmNWM5NjgtYmNjYS00ZWl3L
WE3NGItMWJkOGExZjIxNGQ0LTE0NjI2NDYx%0AMDIZNT
V8N3R0dXMlZ0NjWkdpr214eFZhM1dBOS9CVnNEYnVKM1
FP9300-A /license #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	deregister	登録解除すると、アカウントからデバイスが削除されます。デバイス上のすべてのライセンス権限と証明書が削除されます。

reinitialize

モジュールを完全に再フォーマットするには、**reinitialize** コマンドを使用します。

reinitialize

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

スロットモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

モジュールを再初期化すると、保存されたすべてのアプリケーションデータが完全に消去されます。**commit-buffer** コマンドを発行する前に、実行中のすべてのコンフィギュレーションファイルをバックアップしてください。

例

次の例は、スロット 2 のモジュールを再初期化する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope ssa
FP9300-A /ssa # scope slot 2
FP9300-A /ssa/slot # reinitialize
Warning: Reinitializing blade takes a few minutes. All the application data on blade
will get lost. Please backup application running config files before commit-buffer.
FP9300-A /ssa/slot* #
```

関連コマンド

コマンド	説明
decommission	サーバの稼働を中止します。

remove server

以前に稼働中止されたサーバをデバイス インベントリから削除するには、**remove server** コマンドを使用します。

```
remove server {id|chassis_id/blade_id}
```

構文の説明	<i>id</i>	スロット番号。有効な値の範囲は 1 ～ 255 です。
	<i>chassis_id/blade_id</i>	n/n 形式のサーバシャーシとブレード番号。 (注) シャーシ番号は常に 1 です。
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	シャーシモードでこのコマンドを使用する場合は、スロット ID 番号のみを指定する必要があります。	

例

次の例は、稼働中止されたサーバを削除する方法を示しています。

```
FP9300-A# remove server 1/1
FP9300-A* # commit-buffer
FP9300-A#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	decommission server	サーバの稼働を中止します。
	show server decommissioned	稼働中止されたサーバを表示します。

renew

スマートソフトウェア登録証明書を手動で更新し、すべてのセキュリティモジュールで権限を更新するには、**renew** コマンドを使用します。

renew

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	ライセンス デバッグ (/license/licensedebug) モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	デフォルトでは、アイデンティティ証明書は6ヵ月ごと、ライセンス資格は30日ごとに自動的に更新されます。インターネットアクセスの期間が限られている場合、Smart Software Manager でライセンスを変更した場合は、これらの登録を手動で更新することもできます。	

例

次の例は、license/licdebu モードを開始し、スマートソフトウェア ID 証明書とライセンス権限付与を手動で更新する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope license
FP9300-A /license # scope licdebug
FP9300-A /license/licdebug # renew
FP9300-A /license/licdebug #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	register	この Firepower 4100/9300 デバイスに Smart Software Manager のアカウントを登録します。

reset-password

ユーザーにユーザーパスワードの変更を強制するには、**reset-password** コマンドを使用します。

reset-password *password*

構文の説明	<i>password</i>	ログイン時にユーザーが使用するパスワード。
コマンドモード	scope security	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.10(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 次回ログイン時にユーザーにユーザーパスワードの変更を強制することができます。

例

次の例は、セキュリティモードを開始し、パスワードをリセットする方法を示しています。

```
firepower# scope security
firepower# create local-user admin2
firepower /security/local-user # set
  account-status Account status
  email           Email
  expiration      User account expiration
  firstname       FirstName
  lastname        LastName
  password        Password
  phone          Phone
  reset-password  Change password at next login

firepower /security/local-user # set reset-password
no No
yes Yes
```

関連コマンド	コマンド	説明
	set password	ユーザ アカウントのパスワードを設定します。
	\[Generate Password\]	ユーザーアカウントのパスワードを生成します。

request universal

予約要求コードを生成するには、**request universal** コマンドを使用します。

request universal

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	予約 (/license/reservation) モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン Smart Software Manager で使用できるように、開始前にパーマネントライセンスを購入する必要があります。すべてのアカウントが永続ライセンスの予約について承認されているわけではありません。設定を開始する前にこの機能についてシスコの承認があることを確認します。

Firepower 4100/9300 シャーシに永久ライセンスを割り当てる前にライセンス予約を有効にします。

このコマンドを発行した後、**show license resvcode** を使用して、生成された予約要求、認証、および戻りコードを表示します。

例

次の例は、予約要求コードを生成し、生成されたコードを表示する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope license
FP9300-A /license # scope reservation
FP9300-A /license/reservation # request universal
FP9300-A /license/reservation # show license resvcode
Warning : generating the reservation code takes a few seconds.
Please run the 'show license resvcode' again if the code is not available.
Reservation request code :
<empty>
Reservation authorization code :
<empty>
Reservation return code :
<empty>
```

関連コマンド	コマンド	説明
	enable reservation	パーマネントライセンスの予約をイネーブルにします。
	show license	現在のライセンス情報を表示します。

restart

論理デバイスのブートストラップ設定を変更するには、**restart** コマンドを使用してアプリケーション インスタンスを再起動します。

restart

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

scope slot/scope app/

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

論理デバイスのブートストラップ設定は、変更することができます。変更した後、直ちに新しい設定を使用してアプリケーションを再起動することも、変更を保存しておいて後で新しい設定を使用してアプリケーション インスタンスを再起動することもできます。

次の例は、アプリケーションを再起動する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope slot 2
FP9300-A /slot # scope app-instance asa cluster1
FP9300-A /slot /app-instance # restart app
FP9300-A /slot /app-instance # Do you want to restart now [Y/N]? Y
```

関連コマンド

コマンド	説明
reinstall	アプリケーション インスタンスを再インストールします。

return

永久ライセンスの戻りコードを生成するには、**return** コマンドを使用します。

return [*code*]

構文の説明	<i>code</i> (オプション) Smart Software Manager から取得したライセンスコード。
-------	--

コマンドモード	予約 (/license/reservation) モード
---------	-------------------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 永久ライセンスが不要になった場合は、Smart Software Manager に正式に返却する必要があります。返却しないと、ライセンスが使用状態のままになり、別の場所で使用できません。

このコマンドを入力すると、Firepower 4100/9300 シャーシが即座にライセンス未適用状態になり、試用状態に移行します。

返却を完了するには、<https://software.cisco.com/#SmartLicensing-Inventory> に移動し、ユニバーサルデバイス識別子 (UDI) を使用して Firepower 4100/9300 シャーシを特定し、製品インスタンスを削除します。

例

次の例は、永久ライセンスを返却する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope license
FP9300-A /license # scope reservation
FP9300-A /license/reservation # return
FP9300-A /license/reservation #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show license udi	FXOS ユニバーサル デバイス識別子 (UDI) が表示されるので、Smart Software Manager の FXOS インスタンスを見つけます。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。